

沿革

70年前には仏教青年会として活発な活動があったことが分かっていきます。現在の名称がついたのは昭和51年のことです。

「僧侶として社会に何ができるか」を各時代に知恵を絞り、社会の実情にあわせて柔軟に発想し、新しい活動を創造し取り組み続けているところに山口曹青の特徴があります。

昭和51年以降の活動では、緑陰禅の集い、曹青授戒会、心の大学講座など、檀信徒・一般を対象に定期的に開催を行っています。近年は特に心の大学講座に力を入れており劇「徹通義介禅師のご生涯」の自主上演・「大般若法要」と和太鼓演奏会などを行っています。

ボランティア活動としては、カンボジア難民救済活動、タイ山岳少数民族教育支援活動、ミャンマー難民に冬物衣類を贈る運動、災



山口県 曹洞宗青年会

現在の活動

行事は、月に2〜3回程度行っています。今年度力を入れているのは11

月11・12日に山口市で行う「第33回中国曹洞宗青年会山口大会・心の大学講座」です。青年僧侶だけでなく、檀信徒や一般に公開する講座も設けています。

年間では、一般の方を対象にした行事は、緑陰禅の集い・戒弟の集いなどがあります。緑陰禅は昔

2泊3日で行っていましたが、参加者の希望からここ数年は日帰りで開催しています。戒弟の集いは曹青授戒の参加者を対象に毎年日帰りで行っています。

ボランティア活動は、平成8年よりタイ山岳少数民族教育支援活動を継続しています。募金やクラフト販売などの日常の活動の他、毎年一度は子どもたちの顔を見に現地に赴いています。

また緊急の災害復旧活動などにも参加しています。山口県では2

害時(阪神大震災など)の緊急支援活動などがあります。SVAの故・有馬実成師の出身県でもありその活動に深く関わってきました。現在もSVAや山口県のNPO法人ボランティア山口と共同しながら活動を行っています。

全曹青へは、第10期会長として吉川俊雄老師が就任されました。近年ではIT委員会、青少年教化委員会、広報委員会などへ出向しています。出向者のおかげで、災害対応やIT導入など助かった面

設立	昭和51年8月発足
会長	大野泰生
副会長	池田亮一・清成良知
理事	15名(各教区より)
事務局長	清水隆法
執行部	矢野善隆・森江裕孝 清木玄栄・渡辺永聖 角光全・野坂正道 田村光雄・村上邦明 藤村光昭・小室公寛 末武正憲・大庭俊洞 南健司
会員数	60名(平成22年10月1日)

年連続7月に豪雨にみまわれ、大きな被害ができました。ボランティアアセンターを通じ活動に参加した他、義援金活動なども行いました。会員や徒弟・寺族には、月例研修・徒弟研修(研修旅行や托鉢など)・寺院婦人セミナー等を開催しています。また年3〜4回のかわら版発行・HPの運営も行っています。

この他、全国青少年教化協議会の墨蹟展の協力など、関係団体への協力を行っています。

も多々あります。今後全曹青・各曹青会との連絡・協議を大事にし、活動を行っていきたくと考えています。



〈右上〉第33回中曹青山口大会のチラシ(H22.11)
 〈右下〉平成20年5月 劇「徹通義介禅師のご生涯」を上演。
 〈左上〉平成22年3月 タイ山岳少数民族教育支援、学生寮視察。

